

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200220		
法人名	社会福祉法人 川嶽福祉会		
事業所名	グループホーム しあわせの里		
所在地	熊本県八代市二見本町924-2		
自己評価作成日	令和5年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	令和5年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様がその人らしく自由に生活が出来るよう、生活の様子や会話の中で要望傾聴したり察したりしながら、出来るだけ支援出来るよう職員間で話し合いを行い出来ることは実行している。</li> <li>・行事として外出の機会を増やしたり、季節の行事などを通して気分転換を図っている。</li> <li>・入居者様のケアについては担当制にしており、生活用品の購入やオムツの注文、誕生日のプレゼント購入や毎月の活動の報告を書面と写真で行い、担当が責任をもって利用者に関わるようにしている。</li> <li>・コロナ過であっても、感染予防を徹底した上で出来るだけご家族との面会を許可し、ご家族との繋がりを大切にしている。</li> <li>・上司と職員の間で自由に発言出来るような関係作りをしており、意見の交換が気兼ねなくできている。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな自然環境の中に事業所があり、事業所内はゆったりとした時間が流れています。広いスペースと正面玄関の左右にはウッドデッキがあり、設備が整っており清潔感が感じられます。職員も利用者も穏やかな時間の流れの中でケアが実践され、利用者はそれぞれにゆったりとした時間を過ごされています。新規の利用者が多く、施設長も3年前交代され、コロナ禍以前の活動を実施できるよう、様々な取り組みが試行錯誤されています。年間行事の計画やマンアルの整備も出来ています。月に1度外出の計画が実施されており、利用者の楽しみのひとつとなっているようです。敷地内の畑では家族の協力により季節毎の作物が植えつけられており、利用者と共に楽しまれています。居室内はシンプルに片付けられており、個々人の収納スペースが広く用意されています。
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、職員の目に入るところに掲示し、皆で共有し、理念の意義を日々意識しながら介護が出来るよう努めている。	玄関とキッチンに理念、基本方針が掲示してあります。月に一回の定例会で個別ケアの在り方や方法を理念を基に話し合いをされています。	理念について更に職員間で話し合いの機会を持ち、意識づけされることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域の行事もほとんど無い中、すれ違う近隣住民の方々と挨拶を交わしたり、地域の物産館への買い出し等行っている。	地域の物産館へ買い出しに行くなど、職員と地域の人との交流があります。コロナ禍以前のような個別的な訪問は少なくなっていますが、事業所内での餅つき等を検討されています。	普段の暮らしの中で近隣の人が立ち寄られたり、遊びにくるなど、近隣の人との交流関係が再構築されると良いですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や近隣の方の相談を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の1回の開催を今年度より再開し、地域の民生委員、地域包括支援センター、市役所などから参加されている。事業所の取り組みや行事の内容、入居者様の日常生活状況等を報告し、地域・行政・家族の意見等を取り入れながら事業所の運営に活かしている。	令和5年の6月から再開されています。近隣、行政の関係者の参加はありますが、家族等の参加は出来ていないようです。	事業所からの報告とともに参加メンバーからの意見や、質問、要望を受け双方向的な会議となるよう更に配慮されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分らない事や気になる事など、積極的に相談するようにしている。	加算関係や体制の在り方について行政機関に尋ね、確認されながら対応されています。	事業所の実状やケアサービスの取り組みをしっかりと伝え、より積極的な連携が図られることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月ごとに身体拘束適正化委員会と年2回の身体拘束廃止についての勉強会を開催しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアが実践されています。スピーチロックが気になることがあるので日々のケアの中でその都度、配慮し対応されています。	日々のケアの中で、気付かないうちに気持ちを押さえつけてしまい、利用者の抑圧感を招かないよう、更に気をつけられて、ケアに当たられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回の定例会議で身体拘束・虐待の防止について勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での定例会議の中での勉強会など、学ぶ機会を見つけて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または改定時に説明を行い、理解された上、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時には、行事の案内や日常生活状況の報告などコミュニケーションにつとめており、意見や要望があれば直ちに反映できるよう努力している。	家族の面会は週1回から半年に1回とバラバラですが、意見や要望はあまりないとのことです。請求書を出すときに利用者個人の活動報告をされています。面会が少ない家族に対しては電話にて要望等を聴かれています。	自身の思いや意見を上手に表すことができない利用者であっても、嫌がられることや好まれることを捉え、利用者主体の運営に結び付けられるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や、日々の会話の中で意見や提案を聞き、直ぐに出来ることは反映させている。	日常会話の中で確認できる意見を取り上げ、対応されています。個別面談はしていないが、必要性は感じておられます。	職員の意見を聴く機会を持ったり、意見を言いやすくする等の工夫を更に検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態や働きぶりなど気になった事は副管理者と話し合い、理事長へ相談している。職場の環境整備は、随時気付いたことは提案しながら働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護力を把握し、職員の質の向上の為に月1回の定例会議で勉強会を開催している。また、外部での研修会への参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回 地域密着型サービス連絡会八代ブロック会での勉強会へ参加や、相談などの連絡を電話やメールで行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前ご本人との面談をすることにより、不安や困っている事や要望などを把握し、できるだけスムーズに入所して頂けるよう努めている。入所後もご本人に聞き取りを行い、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が困っている事や要望など傾聴し、サービス提供に反映させ、入所後も要望など傾聴しながら関係作りがスムーズに出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスを提供することで、その人に適したサービスやケアを提供できるようにしている。また、段階的にサービスを提供することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることはして頂き、出来ない所を支援している。洗濯物たたみや茶わん洗いなどを一緒にして頂き、共同で作業をしながら信頼関係の構築も図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会が出来る雰囲気作りにも努め、電話等で随時生活の状況や気になることは連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の援助を行っている。馴染みの方の面会なども出来ている。	面会は制限なく受け入れられています。利用者個別の用事にしっかりと対応し、外出外泊出来る利用者には出来る限りの支援をされています。	利用者本人を支えている関係だけでなく、本人が支えてきた関係にも注目し、更に積極的なアプローチが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの生活が中心なので、テーブルの位置や環境作りに努めている。また、職員が間を取り持ち孤立させないように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご本人様・ご家族様の必要に応じて、機会があれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定例会議の中で入居者様一人ひとりの思いや希望に近づけるよう話し合いを行っている。困難な場合は、ご家族様の意見を聞いたりカンファレンスを開催し、ご本人の立場にたって検討している。	日々の会話の中で把握されているが、利用者本人の意思確認が難しい場合があります。拒否があった場合などは、否定せずそのままを受け入れ、時間をおいて再度対応されています。	利用者によっては思いや暮らしの希望、意向等を明確に把握できないこともあります。「本人はどうか」という視点に立って話し合いをされることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴やアセスメントなどを本人様やご家族様から出来るだけ多くの情報を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での日常生活を通じて、生活のリズムやパターン、出来る事出来ない事を観察しながら把握し、定例会議で話し合いを行い、それに応じた対応を実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前にアセスメントを取り、介護計画書を作成している。入居後は、様子観察を行い、問題があれば変更を行っている。また、ご家族様の面会時や電話などで話を聞き、介護計画書に反映している。	6か月ごとの短期目標でアセスメント、介護計画が作成されています。	生活歴やアセスメントを基に利用者本人の視点に立ち、その人らしく暮らし続ける為に、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録へ記入している。業務開始時に申し送りを行い、ケース記録、業務日誌、連絡ノートなどを使って職員間で情報共有をしている。定例会議でケアの見直しを行い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間の経過と共に入居者様の状態やご家族様の状況も変化が見られることもため、臨機応変に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地産の食材を地元の店で購入している。地元の理髪店で出張散髪をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、以前からご本人のかかりつけ医と連携しながら健康管理に努めている。	ご家族による通院が困難な場合の送迎や受診の介助が行われています。精神の訪問看護も実施されています。	受診時の主治医の指示内容や訪問看護の訪問時の記録、ご家族への報告内容の流れが見えやすくと良いですね。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で報告・相談を行い、適切な受診や看護を受けられるようにしている。緊急時でも電話で訪問看護へ相談し対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、直接病院へ行き、入居者様の状態を見て来るようにしている。地域連携室や相談員と連携して、病院関係者と密に情報交換を行い、早期退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に関する要望書の同意を頂いている。それらをもとに、段階的に終末期に関する話し合いを行っている。	看取りに関する指針や看取り介護に関する同意書等細かいマニュアルがあり、研修も行われていますが、看取りに対する体制が難しいようです。	過ごされてきた生活の中で自然な看取りが出来るようになると良いですね。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故に対応できるよう、普段の会話の中や定例会議で研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(消火・通報・避難)を消防署立会いのもと行ったり、運営推進会議のなかで地域の方への報告も行っている。	年2回の消防訓練が実施されています。BCPの研究も計画されていました。	災害時、如何に事業が継続できるか、災害も地震や洪水、台風、感染等幅広い対策が必要です。委員会で役割分担をして、取り組んでいかれることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を通して尊厳とプライバシーに関する研修を行ったり、業務中に指導している。	写真掲示や広報の同意を得て実施されています。トイレ介助や入浴時、言葉遣いに気を付け、その都度注意をされているようです。プライバシーポリシーに細かく、具体的に表記されています。研修も行われています。	ご利用者一人一人が大切にしている事や嫌だと思っている事を知ることでケアに活かされると良いですね。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の自己決定を優先してケアにあたっている。入居者様の好みや思いなどに関心を持ち、会話などを通してご本人様の希望や気持ちを傾聴しケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や生活リズム、生活のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参された衣服や化粧品などで、自由に装飾出来るように支援している。また、ご本人の意思のもとマニキュアなども塗っている。整髪は出来るだけ今まで通っていた店舗へ連れて行ったり、希望があれば散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けをして頂けるように声かけをしているが、拒否されることが多い。	リビングに台所があり、職員が食事作りをされています。美味しそうな臭いが食欲をそそります。行事食や外出先でお弁当を楽しんだり、近くの山の筍を料理したり、ご家族が事業所の中庭で菜園を作り出来た野菜の収穫を一緒に楽しんでいます。	楽しみの支援に頑張っておられます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの摂取量・水分量の記入を行い、摂取量に応じて加減を行っている。また、なるべく栄養バランスの良いメニューを考えながら提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアを行い、義歯の管理も行っている。数名は訪問歯科を利用されており、口腔内の異常がある場合はその都度相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンや量や頻度を確認しながら、その人に合った排泄介助を行っている。入所時にはリハビリパンツを使用していた方も、日中は布パンツで過ごせるようになった。	排泄パターンを記録し、仕草や尿意を確認され、トイレ誘導をされ、排泄自立への努力をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維の多い食材を使った食事を提供し、便秘が続いている方には牛乳やココア等を提供したり、主治医へ相談し下剤の服用も行っている。常時下剤を服用されている方の排便をチェックし、便の状態を見ながら下剤の量を主治医と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を提供している。本人の体調や病状・習慣などを聞き取り、入浴表を作成している。その日の体調や気分に合わせて柔軟な対応を行っている。季節湯なども行い、楽しい入浴が出来るよう心がけている。	ゆず湯、しょうぶ湯の提供や利用者のこだわりに合わせてシャンプーの使用等本人の好みの温度にも気を付けておられます。寒い時期は入浴時間を暖かくなる午後になっています。	これからも細かい配慮が続けられる事を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は希望に応じてリビングのソファや居室で休まれている。夜間は居室のエアコンで温度調整をおこない、快適な室温で休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬管理袋を作っており、薬の名前・内容と効能を記して、それを見ることにより薬の目的等が理解できるようにしている。服薬チェック表を作成し、活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の現在の身体状態にあった役割を持って頂いている。生活歴や好み、楽しみを知ることでご本人に合った楽しみを持って頂けるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や行事に合わせて外出の計画を立て実行している。天候が良い日は近所の散歩もおこない気分転換が出来るよう支援している。	ほぼ毎月、外出のイベントが計画され、水俣のバラ園や、紫陽花、秋桜の見学等、体調に問題がない利用者は全員が外出されています。事業所の庭や近所への散歩も時間をずらし外出支援がされています。車椅子で好きな時にウッドデッキに出ることができ、日光浴をされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より「預かり金」としてお小遣いを預かっている。その中から病院の受診代や必要なものはご家族の了解を得て使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の声が聴きたい等の希望があれば、ご本人が電話できればして頂き、出来なければ支援している。届いた手紙を本人に読んであげたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは空間も広く明るくゆったりとした作りになっており、エアコンで空調を調整している。窓も大きくベランダもあるため日光浴などもできる。壁には季節ごとの飾りも装飾している。	天井が高く明るい廊下は「しあわせの里ギャラリー」として両方の壁に写真や利用者が書かれた書が飾ってあります。リビングの片方の窓は広く長いスクリーンのように季節の移り変わりが感じられるような背景になっています。	利用者と一緒に楽しめる空間づくりが出来ると良いですね。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2か所ソファを配置し、自由に座ることができる。食事の席を使い、気の合った利用者同士が談笑されている。一人になりたいときは自室で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具などを持って来て頂き、本人と相談しながら配置を考え、居心地の良い空間となるようにしている。装飾などもご本に聞きながら飾っている。	居室にも廊下にも専用の広い収納スペースがあり、私物も整理され清潔感があります。また、居室にはご家族の写真が掲示されています。娘さんから毎日届いた絵手紙をファイルにされ、いつでも見ることができるようになっていました。	その人らしい個性のある部屋作りが出来ると良いですね。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には掲示板や貼紙をしてわかりやすくしている。ホーム内はバリアフリーにより安全に移動できるようになっている。		